

(6) Greater Los Angeles Agency on Deafness (ロサンゼルスろうコミュニティセンター)



1) 背景

これまで視察した大学2校、聾学校2校では、聴覚障害のある高校生の移行支援において、担当教員、IEPコーディネーターなど支援関係者との連携で支援したり、PEPNet-Westのように広域にわたる移行支援ネットワークを構築して支援・啓発・広報の活動を展開していることが明らかになった。しかしその一方で、今回の視察にご協力頂いた支援担当者らが口を揃えて、聴覚障害のある高校生の移行支援において、親は高校生の自立や人生への影響力を大きく持っているキー・パーソンであるため、親にも移行支援のプロセスに参加してもらいたいが、現実には参加してもらえないため職業や将来への設計に関する情報共有や意思決定を進めることが難しいときがあると指摘していた。CSUNの章で前述したように米国における17、18歳の聴覚障害生徒群の平均的な読解力は、小学校4年生の健聴児童のそれと同様であるとの報告(Witsken, 2001)が出されていることと、情報源の1つでもあるメディアの大部分が音で占められ、こういった事情から平等なアクセスを得られないことから、聴覚障害のある高校生本人自身が、大学や職業に関する情報を収集し、自分自身の将来設計を考えて、現実的なプランや必要な予算を検討する作業を行うのは難しいであろうことは予測できる。一方、親の側に(1)親の聴覚障害に関わる情報の不足や欠如、(2)家庭内のコミュニケーション環境の不足、といった日本や諸外国に共通する慢性的な問題が挙げられる。移行支援でも、情報共有や子どもの将来についての共通認識を図る必要はあるが、大学や特別支援学校が各家族との関係を作り、継続的な支援を進めるにはさまざまな制約が伴うと思われる。

そこで、「保護者への支援サービス (Parent Connections)」を実施しているロサンゼルスろうコミュニティセンター (Greater Los Angeles Agency on Deafness) を訪問して、コミュニティセンターとしてどのような支援活動を行なっているのかをインタビューと施設見学を行なった。

2) ロサンゼルスろうコミュニティセンターの概要

ロサンゼルスろうコミュニティセンター (図20)の目的は、ろうコミュニティへの平等なアクセスを保障し、聴者(例えば、聴覚障害児の家族や友人)にも同様の機会を与えられるようにすることである。同センターは「GLAD」という名前で広く知られており、1969年にボランティア組織として発足して以来、聴覚障害のある子ども・成人の生活の質的向上に取り組み、現在は、表6に示す通り多様なサービスを提供している。

また、同センターの支援活動は、ロサンゼルス郡、カーン群、ベンチュラ群、サンタバーバラ群、オレンジ郡、リバーサイド群、サンルイスオビスポ群、サンバーナーディーノ群、インヨー群、モノ群と広範囲にわたって行われている。

センター運営の資金は、主に助成金(\$3,866)、手話通訳料(\$1,810)が収入の約90%

を占めており，助成金の過半数は，カリフォルニア州社会福祉局（CA Department of Social Services）から支給されている．これら資金の大部分は，表6のサービスを提供するための経費として運用されている．

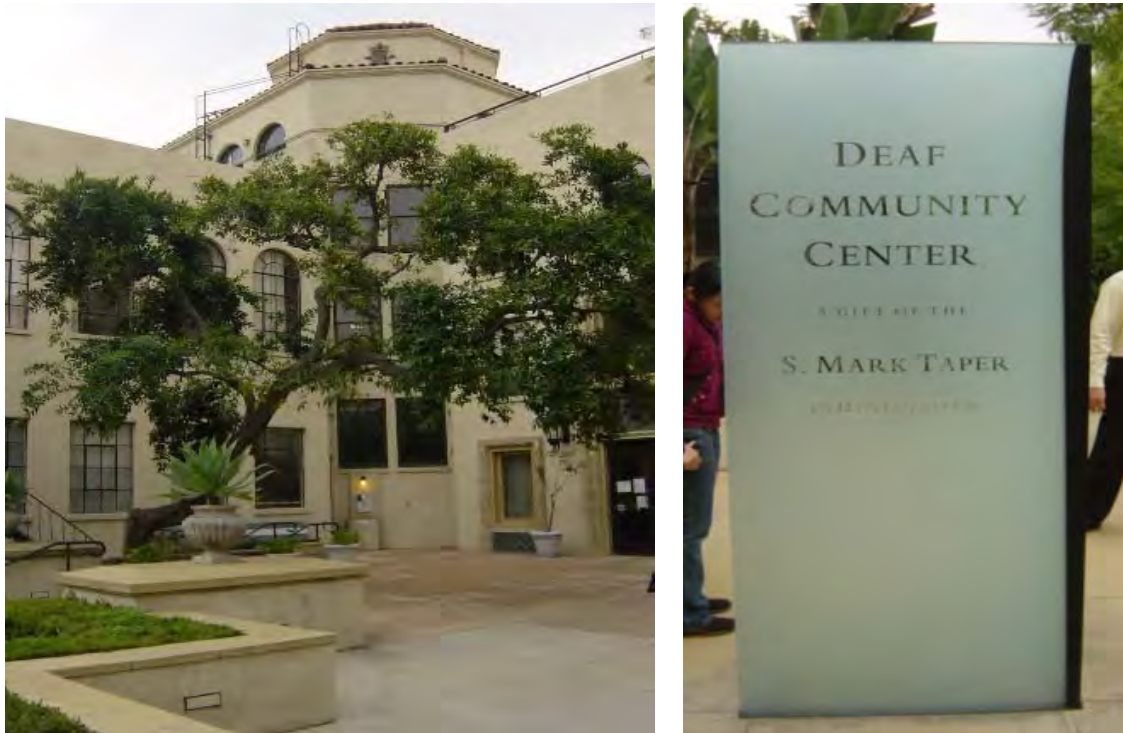


図 20 ロサンゼルスろうコミュニティセンターの前景と看板

表6 ロサンゼルスろうコミュニティセンターが提供するサービス一覧

サービス	主な内容（例）
対人援助 (Human Services)	コミュニティ教育, ピアカウンセリング, 難聴専門の支援, 自立支援, 両親教育など
健康教育 (Health Education)	ガンの検査や教育, 青少年を対象にした妊娠予防指導, エイズ感染予防指導, 健康管理など
広報活動 (Public Relations)	電子ニュース, ホームページで情報発信, コミュニティの集まり, 政府やメディアへの広報活動 (図 22, 23) など
雇用 (Employment)	8つの雇用促進部局の設置, 就職準備トレーニング, 職場における情報保障, 労働市場の情報提供など
通訳者派遣 (Interpreter Referrals)	手話通訳者, 触読手話通訳者, 口話通訳者の派遣 24時間体制で対応可能
高齢者住宅 (Senior Housing)	低所得層対象に14世帯分の部屋を提供, 連邦住宅・都市開発省 (HUD) の連邦住宅局によるプログラムなど

2) 同センターにおける親の会 (Parent Connections) の取組

親の会は、カリフォルニアコミュニティ財団 (California Community Foundation) からの助成を受けて、聴覚障害児を持つ家族とのつながりを形成し、情報提供、健康管理サービス、早期介入プログラムなどのサービスを提供している。このような教育、トレーニング、サポートを通して家族の力をエンパワメントすることを目指している。親は、教育、医療、社会の側面で聴覚障害児の人生に長く影響を及ぼすような決定を告げる者になるため、親の会では、グループ活動、1対1での援助、擁護や照会サービスを提供したり、早期介入システムに関わる支援者対象の情報とトレーニング、聴覚障害児・者の特定のニーズに対応したメディカルコミュニティも提供している。

親の会の運営や支援を担当しているスタッフ Paul Stussey 氏 (図 21) に、親の会の実態や課題等についてインタビューした。



図 21 Paul 氏と

ABOUT US

PARENT CONNECTIONS, a program funded by the California Community Foundation, is a network of parents in Los Angeles County supporting families of infants, children and youth who have a hearing loss.

We provide:

- Individual support
- Advocacy
- Information on local, state, national resources for families
- Information on early intervention education and technology
- Workshops & trainings





**CALIFORNIA
COMMUNITY
FOUNDATION**

Program funded and made possible by the California Community Foundation in collaboration with GLAD.



Greater Los Angeles Agency on Deafness, Inc.
2222 Laverne Ave.
Los Angeles, CA 90041

www.gladinc.org

For more information contact PARENT CONNECTIONS at GLAD

Phone (323) 478-8000 Voice/TTY
Fax (323) 550-4255
e-mail: Info@gladinc.org

PARENT CONNECTIONS






図 22 パンフレット表面

Paul 氏は、Parent Connections の役割は、聴覚障害児に対する親自身の捉え方と聴覚障害児が直面している現実のギャップを埋めることに意義があると主張している。移行支援に関して言えば、親は聴覚障害児がどのようにして進学・就職するのか、どのような制度やサービスがあるのかについて十分に把握していないこと、その一方で聴覚障害のある高校生も進学・就職に関わる情報提供やカウンセリングサービスを受けていながらそれを理解するための言語力、学力が十分でないため親に報告できないという問題が生じているという。他に、市民権やグリーンカード（永住権）を持たない家族（移民に多い）の英語力が低いために、聴覚障害児の言語力や学力も伸びにくいという問題もある。社会資源を有効に活用して進学・就職できるような教育環境の整備を支援する必要もある。したがって、聴覚障害のある高校生だけを支援するのではなく、親もともに考え、今後の人生設計に現実的なビジョンを持って臨めるように、親を対象とする支援サービスを実施するべく、Parent Connections が発足された次第である。

With PARENT CONNECTIONS you are never alone...

PARENT CONNECTIONS is a program that links families of deaf and hard of hearing children/youth to information, health care services, early intervention programs and to other parents.

PARENT CONNECTIONS provides parent group meetings, one-on-one support, advocacy and referral services. It offers information and training to service providers within the early intervention system and to the medical community about the needs specific to deaf and hard of hearing people.

PARENT CONNECTIONS is available to families residing in Los Angeles County. The goal is to empower families through education, training and support. Parents become informed participants in education, medical and social decisions that have a life-long impact on their deaf or hard of hearing child.

PARENT CONNECTIONS provides a wide range of unbiased resources about deafness, hearing loss and support. We believe that parents want to become knowledgeable about issues relating to hearing loss, advocate for the rights of their children and make informed decisions. GLAD representatives have been serving deaf and hard of hearing individuals for over 39 years.



As parents, we want to understand and know more about our children. It is important for parents to realize they are not alone when they learn their child cannot hear. Parents look for answers to meet their child's social, psychological and educational needs. They often seek those answers through their doctor who may not have exposure to deafness. **PARENT CONNECTIONS** provides unbiased resources.

With **PARENT CONNECTIONS**, the feeling of connection, or links, may be one of life's sweetest moments—when someone understands you, really understands, because they have "been there."

If you are a parent of a deaf or hard of hearing child and want to get connected or interested in becoming a resource parent in your area, please contact our **PARENT CONNECTIONS** Staff.



図 23 パンフレット裏面

現在の Parent Connections は、Paul 氏と上司の 2 名体制で運営している。Parent Connections に参加する対象は、0～21 歳の聴覚障害児・者を持つ親である。年齢の上限を 21 歳までに設定している理由は、留年を考慮してサポートを継続できるようにすることと、アメリカでは 21 歳以上が成人とみなされることからそれまで親の保護や支援が必要であるためである。

Parent Connections で主に提供しているサービスについては、毎週水曜日夜に 10～20 名集めてさまざまなトピックのワークショップを開催している。例えば、ASL や指文字等のコミュニケーション方法の習得支援、聴覚障害児・者対象の制度やサービスの紹介、情報保障の種類（Assisted Listening Device も含む）の紹介、聴覚障害児における薬物使用や性・暴力問題に対する理解不足から生じる問題への対処方法、コミュニティ・カレッジ、職業学校や経済的支援に関する情報の提供（例えば、職業・修学支援（職業リハビリテーションによる支援）を受けるための要件とは何かを説明し、その要件を満たすためのプロセスを提案する）、まだ十分でない英語の読み書きや数学の学習支援を受けることができる職業センター（例えば、Abraham Fredman Occupational Center や North Valley Occupational Center のように聴覚障害のある生徒や成人が多く集まるセンターを紹介する）や職業案内所（例えば、多くのろう者が利用している Goodwill の紹介）等の紹介などが挙げられる。

また、地域の 6 つほどの聾学校（マールトン学校も含む）を訪問して、保護者対象のセ

ミナー、説明会や個別相談を実施している。メインストリーム校とのつながりも作っている。これは、毎月第一日曜日に開かれるカトリック教会に 55 組程のデフ・ファミリーが集まり、そこでメインストリームの高校生を持つ親と情報交換してメインストリーム校の教職員と連絡をとったり親対象の講演会を開いたりしているという。

さらに、常勤スタッフの勤務時間外に、窓口スタッフを 2 名配置していつでも対応できるようにしたり、窓口スタッフがどうしても対応できない問題が生じた場合に Paul 氏が窓口経由で連絡を受け取って現地へ赴くようにするなど親との信頼関係の形成と維持に余念がない。

課題としては、言うまでもなく聴覚障害児を持つ親全員をカバーすることは大変難しいこと、現在もなお親の大部分は聴覚障害に関わる支援情報を十分に知らないと思われることからより広域な啓発活動が必要であることが挙げられる。

以上から、Parent Connections は、聴覚障害児が 0 歳から 21 歳までの間、親に対して一貫して地域から教育、医療、社会などの場面で情報提供、啓発活動、コミュニケーション・生活支援など多岐にわたる取組を行っていることが特徴的であると思われた。しかも、ほぼ同じスタッフが乳幼児期から就職までのプロセスで一貫して支援でき、かつ移行支援も円滑に行われるように促していくという長所は、教育期間が限られている大学や特別支援学校では取り組むことは不可能であろう。いわば、ろうコミュニティセンターは、大学や特別支援学校における移行支援で生じる隙間を埋めていくかのように、当事者、親や家族、支援者が一体となって新たな段階や環境に適応できるよう柔軟かつ継続して支援しているのであり、地域センターだからこそ可能にしている役割であるともいえるだろう。